

[005]南鮮演習林植物調査

初島, 住彦
九州帝国大学助手

<https://doi.org/10.15017/14204>

出版情報 : 九州帝国大学農学部演習林報告. 5, pp.1-281, 1934-03. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

Polygonatum inflatum Komarov var. **rotundifolium** Hatusima, var. nov.

マルバミドリヤウラク (新稱)

葉は極めて圓さを特徴とす。基本種と混生し稀なり。

Orchis cyclochila Maximowicz var. **albiflora** Hatusima, var. nov.

シロバナカモメラン (新稱)

花は純白色にして唇瓣に紫色の斑點を缺ぐを異點とす。天王峯の頂上附近に得たり。

(五) 利用上注意すべき植物

Abies koreana Wilson サイシウモミ

本演習林海拔 1200 米内外の峯筋の森林に多く直径 30 糎以上に達するもの稀にして 20 糎内外のもの極めて多し。往々タウシラベと混同せらるゝも葉は短かく肥厚するを以て直に區別することを得。分布は極めて狭く慶南 (加智山)、全南 (徳裕山)、濟州島の羅漢山に限らる。本種は本演習林の高地に於ける造林樹種としてエゾマツと共に極めて重要なるものなり。

Picea jezoensis Carrière エゾマツ

本種は前者と混淆し蓄積よりすれば前者に劣るも高地森林の林地保護上前者と共に極めて重要なる樹種なり。本種も前者と混淆し造林するときは本山嶺の 1000 米以上の地域にて成林の見込ありと信ず。

Pinus koraiensis Siebold テウセンマツ

海抜 1200-1300 米の森林内に散在し純林をなすことなし。蓄積よりすれば極めて少さも將來他の樹種と混淆し造林せば或る程度迄成林の見込あると信ず。

Acer mandshuricum Maximowicz マンシウカヘデ

演習林内に於てイタヤカヘデと共に極めて普通にして種々の器具製作用に使用せ

らる。

Acer Mono Maximowicz イ タ ヤ カ ヘ デ

カヘデ類中前者と共に最も普通なるものにして器具製作に使用する外樹幹を傷つけ薬水を探るに使用せらる。

Betula Ermanni Chamisso エ ゾ ノ ダ ケ カ ン バ

高地森林帯を形成せる有用樹種にして谷間に於ては樹高 30 米内外に達するも峯筋にては灌木状を呈するもの多し。本種も前者同様薬水採集に使用せらる。

Fraxinus mandshurica Ruprecht ヤ チ ダ モ

本種も谷間に普通なる喬木にして器具其他に使用せらる。

Quercus mongolica Fischer var. **manshurica** Nakai

テウセンミヅナラ、マンシウミヅナラ

本種は所謂テウセンミヅナラ帯を形成せる樹種にして蓄積よりすれば本演習林内第一に位し直径 30 ㎝内外に達するものあり。家具材として有用なる樹種なり。

(六) 演習林産植物数の統計並に
各演習林産植物数との比較

a. 系統分類上の統計

今演習林産植物の系統的統計を示せば次表の如し。

分類範疇 範 疇	科	屬	種	亞 種	變 種	品 種
古生花被區	60	125	293		15	1
後生花被區	23	99	171	1	7	2
雙子葉植物	83	224	469	1	22	3
單子葉植物	11	65	103		5	1